しむこと。

(ｱ) 英語の歌や日常生活になじみのある語などを聞き，音声やリズムに親しむこと。

(ｲ) 外国の生活や行事などに触れ，日本と外国の生活や違いを知ること。

〔思考力，判断力，表現力等〕

(2) 自分の考えや気持ちなどを表現したり，伝えたりする力の素地に関する事項

具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身近で簡単な事柄について，注目して見聞きしようとすること。

イ　身近で簡単な事柄について，相手の働きかけに応じようとすること。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

(2)に示す事項については，(1)に示す事項を活用して，例えば，次のような言語活動を取り上げるようにする。

ア　聞くこと

(ｱ) 既に経験している活動や場面で，英語の挨拶や語などを聞き取る活動。

(ｲ) 既に知っている物や事柄に関する語などを聞き，それが表す内容を実物や写真などと結び付ける活動。

イ　話すこと

(ｱ) 既に経験している活動や場面で，実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。

(ｲ) 既に知っている歌やダンス，ゲームで，簡単な語や身振りなどを使って表現する活動。

②　言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり，主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

ア　言語の使用場面の例

(ｱ) 児童の遊びや身近な暮らしに関わる場面

㋐　歌やダンスを含む遊び

㋑　家庭での生活

㋒　学校での学習や活動　など

(ｲ) 特有の表現がよく使われる場面

㋐　挨拶

㋑　自己紹介　など

イ　言語の働きの例

(ｱ) コミュニケーションを円滑にする

㋐　挨拶をする

(ｲ)　気持ちを伝える

㋐　礼を言う　など

3　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 外国語活動においては，言語やその背景にある文化に対する関心をもつよう指導するとともに，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を行う際には，英語を取り扱うことを原則とすること。

(2) 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　単元や題材など，内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，具体的な課題等を設定し，児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，コミュニケーションのよさを感じながら活動を行い，英語の音声や語などの知識を，二つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

イ　外国語活動の指導を行う場合は，第３学年以降の児童を対象とし，国語科の３段階の目標及び内容との関連を図ること。

ウ　２の内容のうち，主として言語や文化に関する内容の指導については，コミュニケーションに関する内容との関連を図るようにすること。その際，言語や文化については体験的な理解を図ることとし，指導内容が必要以上に細部にわたったり，形式的になったりしないようにすること。

エ　指導内容や活動については，児童の興味や関心に合ったものと